

令和3年度 中学生の「税についての作文」

千葉県柏県税事務所長賞

「税金の存在に感謝を」

柏市立田中中学校 三年 河北 悠

私には鹿児島県出身の祖父がいる。鹿児島県は熊本県に隣接する県である。一九五六年に熊本県で水俣病が流行った。祖父はその頃まだ鹿児島県に住んでいて、被害を受けた。私はその時まだ生まれていないはずもなく、被害を受けたと知ったのは小学校に入っすぐの頃だった。言われてみるとたしかに左手の中指と薬指がくっついていて、全体的にも手が少し痙攣していた。そのため、作業するには不便だったそう。私が生まれてからもなお症状があったということは、長い間苦しめられてきたのだろう。

それから二年程経ったある日、祖父の手の違和感が消えていた。細かい作業も難なくこなす姿は、今まで見たことないぐらい楽しそうだった。

私は祖父に聞いた。

「手、治ったの？」

「治っていないけど、手術をしてもらったんだよ。」

子供ながらに大変な病気だということを知っていたため聞いてしまった。

「お金結構かかった？」

「お金は県に払ってもらっちゃった。」

と、慣れないその手でピースを作ってみせた。

手術の費用を県に払ってもらえる仕組みがあることを知らなかった私は、衝撃を受けた。祖父は手の腱を切る手術をしたとのことだが、元々公害である水俣病にかかっていることを認定され、水俣病被害者手帳を交付されていたため、医療費が全額公費によって支払われた。これは人権の中でも生存権によるもので、皆が納めた税金で成り立っている。

私は、中学生になって税金の勉強をし始めた時にこの話を思い出して、祖父の笑顔が皆が懸命に働いて納めてくれた税金によって取り戻せたことを知った時、日本という国、納税をしてくれた人に感謝した。

約二年前、消費税が10%へ引き上げられた。これが報道された時、反対意見が多く見られた。なぜそのようになったのか。それは、実際に税金が使われているところをあまり見かけたことがないからだと思う。消費税に限らず、自分が納めている税金の行方がわからなかったら不安になって当たり前だ。でも、税金は意外と身近なところで使われている。救急車の手配や、校舎の建設などである。

私は、祖父の話で税金のありがたみを実感することができた。それまでは税金のことを、大人になったら納めなければいけないものとしか考えていなかった。税金に向けて批判が殺到しているが、沢山の人の命が、働く人々の納税によって助けられているという事実を知ってほしい。私も将来納税者になったら、人のために納税をしているという自覚を持ちたいと思う。